



群馬の土地改良

No.268

榛名富士 (高崎市)



CONTENTS

- 新年のご挨拶 2~7
- 第47回全国土地改良大会 佐賀大会 8~9
- つながる、広がる、農業農村の力。
男女共同参画推進大会 in くまもと 10
- 令和7年度 土地改良区等役職員研修会 11
- 農業農村整備の集い及び要請活動 12~13
- 2025ため池フォーラム in ひろしま 14
- 令和7年度 ため池サポートセンターぐんま技術研修会 14
- 令和7年度 土地改良区運営基盤強化推進研修 15
- 令和7年度 ぐんま農業農村整備広報委員会による
「学生向け現場見学会」 15
- 令和7年度 第2回理事会 16
- 令和7年度 第2回監事会及び監査 16
- 令和7年度 農業集落排水に関する
絵画コンクール審査会及び表彰式 17
- 未来へつなごう！ふるさとの水土里
子ども絵画展2025 18
- 鹿田山フットパス整備作業が開催されました
(大間々用水土地改良区) 19
- 高崎市立寺尾小学校での出前授業
(高崎西部土地改良区) 19
- 新年ご挨拶 20



新年のご挨拶

群馬県土地改良事業団体連合会会長 熊川 栄

厳寒の折、お健やかに新年を迎えられたことと存じます。

平素より会員の皆様には、当会の業務運営に格段のご高配を賜りますとともに、農業農村整備の推進に対して、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、昨年9月に当会も共催として協力させていただき、広瀬桃木両用水土地改良区が開催しました「疏水フォーラム in 広桃用水2025」では、県内会員、群馬県や関係機関の皆様、一般の方を含め約500名が参加されましたが、台風15号の影響を受け各地で被害が発生し、新幹線が遅延するなどのあいにくの天候にも関わらず、全国各地から足を運んでいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、令和7年4月に施行された土地改良法においては、土地改良区の運営基盤の強化を図るため、将来にわたり地域の農業水利施設等を適切に保全していくための将来像を関係者で共有し、保全に関する取組を推進する体制を構築することが必要として、土地改良区や市町村等の関係者が共同して、将来の保全体制を構築する「連携管理保全計画（いわゆる 水土里ビジョン）」が位置付けられたところであり、また、新たな「食料・農業・農村基本計画」では、初動5年間で農業の構造転換を集中的に推し進めることとしております。

さらに、9月には、「土地改良長期計画（令和7年度から令和11年度）」が閣議決定され、農地の大区画化、中山間地域等における省力化整備、老朽化する農業水利施設の計画的な整備・保全等を推進することが盛り込まれました。

こうした中、国の農業農村整備事業関係予算は、令和8年度当初予算額4,504億円で概算決定され、令和7年度補正予算と合わせると6,942億円となり、令和7年度を上回る予算が確保される見通しとなりました。

当会といたしましても、国の政策において、土地改良は、まさに一丁目一番地であり、重要な役割を果たすものであるため、農業・農村を巡る情勢にしっかりと対応し、農業農村整備事業の推進と土地改良予算の安定的・継続的確保のため、農業農村整備関係予算につきましても、引き続き全国の土地改良団体と連携し、「闘う土地改良」の旗印の下、関係機関に強く要請して参ります。

今年の干支、丙午（ひのえうま）は、火のエネルギーが強く、活力や発展を象徴し、新しいことを始めるのにも良い年ということだそうです。

そうした中、群馬県におかれましては、県農政推進の基本指針となる「群馬県農業農村振興計画2026-2030」が今年新たに策定されるとのことです。

当会といたしましても、国や県の施策に呼応し、関係機関と連携を図りながら、これまで培ってきた技術と経験を最大限に活かして、「国の基」である農業の持続的発展と、魅力あふれる農業・農村の実現に向け、これまで以上に役職員一丸となって取り組んで参りますので、本年も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

群馬県知事 山本 一太

明けましておめでとうございます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆さまには、心新たに輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から本県の農業農村の振興・発展はもとより、県政全般にわたり御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新たな年を迎えるにあたり、県民お一人お一人が安心して暮らし、自らの可能性を力強く伸ばしていける群馬県の実現に向けて、本年も全力で挑戦を続けてまいります。

昨年は「伊香保国スポ2025」における群馬県選手の活躍を皮切りに、群馬県の存在感と勢いを示す数多くの成果を刻むことができた1年でした。「移住希望地ランキング」で初めて全国1位を獲得、また県公式YouTubeチャンネル「tsulunოს」の発信力が全国トップクラスに成長し、TikTok上半期トレンド大賞2025では自治体初の特別賞を受賞しました。アルメニア発祥の教育プログラムである「TUMŌ」をアジアで初めて導入し、デジタルクリエイティブ人材育成施設「TUMŌ Gunma」として「Gメッセ群馬」4階にオープンしました。11月には、このTUMŌの教育モデルが「教育版ノーベル賞」とも称されるWISE賞を受賞し、開所間もないTUMŌ Gunmaにとって大きな励みとなりました。10月には「Gunma Flower Park +」がリニューアルオープンしました。花を五感で感じられるさまざまな体験ができると、県内外から多くの皆さんが来場しています。

さらに11月末には、「温泉文化」がユネスコ無形文化遺産の国内候補に決定するという、大変うれしいニュースもありました。群馬発の挑戦が国を動かした成果であり、温泉文化を世界へ届ける歴史的な一歩を刻みました。世界に誇る温泉の魅力を次代へ受け継ぐため、引き続き関係団体などと連携し、登録に向け着実に歩みを進めてまいります。

経済面では、年末に公表された令和4年度の経済成長率が全国トップになったほか、最低賃金の伸び率も全国トップクラスとなるなど、「新・群馬県総合計画」の7つの政策の柱の下に取り組んできた施策が、幅広い分野で着実に実を結んできたと実感しています。

本年は、人々を魅了し、ワクワクするような付加価値を生み出す「デジタル・クリエイティブ産業」の育成を加速させていきます。自動車をはじめとする「ものづくり産業」に並び、未来の群馬県をけん引していく新たな産業に育てるため、「クリエイティブ拠点化」「ロケ支援・魅力発信」「デジタルクリエイティブ人材育成」の3つの柱を中心に取り組みを進めます。関連企業の県内誘致や大型映像作品の制作支援などのほか、関連産業を支える人材育成として、小・中学生、高校生向けのtsukurun、前述のTUMŌ Gunmaの運営に加え、大学生世代以上を対象とした（仮称）デジタルクリエイティブスクールについてもしっかりと検討してまいります。

また令和11年に開催される「湯けむり国スポ・全スポぐんま」を見据えて、群馬県民のさらなる活躍を目指して競技力向上に取り組むなど、その準備を加速させます。両大会の開催を通じて、誰もが尊重され、力を発揮できる共生社会の推進に取り組んでまいります。

これらの取り組みを着実に進めるため、限られた資源を最大限に生かす「ワイズスペンディング（賢い支出）」の考え方を徹底していきます。県庁が自ら稼ぐ政策や、デジタル化による業務効率化で生み出した財源や人的資源を、直面する課題や未来への投資に集中し、県民幸福度の向上につなげてまいります。

本年も「選ばれる群馬」「挑戦する群馬」の実現に向け、県政のあらゆる分野で全力を尽くしてまいります。新しき年が、会員の皆さまにとりまして、希望に満ち、豊穡なる成果をもたらす一年となりますことを、謹んで祈念申し上げます。



新年のご挨拶

群馬県農政部長 岸 篤志

明けましておめでとうございます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素より群馬県農政の推進にあたりまして、多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は記録的な夏の高温や少雨が続き、県内においても水稻をはじめ農作物の生育や水管理に影響が生じるなど、農業現場にとって厳しい一年となりました。さらに全国各地では線状降水帯による豪雨被害も多発し、自然災害の激甚化・頻発化がより顕著になっています。

また、国際情勢の変化や円安に伴う資材価格の高騰など農業を取り巻く環境は依然として予断を許さない状況にあります。農業経営の安定化と持続可能な農村地域づくりに向けた取組は、これまで以上に重要となります。

このような中、国においては土地改良長期計画が1年前倒しで策定されました。今後の土地改良事業の在り方が明確化されるとともに、「農業生産性の向上」、「農業用水の安定供給及び適切な排水」、「安全・安心な農村の実現」など具体的な対策が計画に位置付けられました。

群馬県では、群馬県農政の基本指針となる新たな農業農村振興計画を今年度末までに策定いたします。次期計画では、現行計画の理念を継承しつつ「ともに創る！自然と経済の調和のもとに成長する農業・農村」を目指して推進してまいります。

これに加えて、部門計画である次期農業農村整備計画も策定し、農業振興と地域振興の二つの視点から持続可能性を高める整備と保全管理を進め「ともに未来へつなぐ！豊かな農業と安全・安心な農村の実現」を目指します。

「力強い農業」、「活力ある農村」、「安全・安心な食」の確保には、その基盤となる農業農村整備事業の着実な推進が不可欠ですが、生産基盤整備の実施や農業水利施設等の保全管理においては、会員の皆様と行政が連携・協働し、一体となって取り組むことが重要となりますので、皆様と力を合わせ、地域農業を支え、未来の農村をつくる取組を進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



新年の御挨拶

群馬県県土整備部長 宮前 勝美

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、日頃より県土整備行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、農業集落排水施設の安定運営による生活環境の保全に御尽力いただきありがとうございますことに、改めて深く感謝申し上げます。

昨年は、今後10年間の社会基盤整備の指針となる「ぐんま・県土整備プラン2025」がスタートした節目の年でありました。長年にわたり整備が見送られてきた事業を含む「8つのプロジェクト」をはじめ、県民の日常生活を支援する地域密着型事業を着実に前進させる「好循環」を生み出すことができたものと受け止めております。

一方で、昨年1月の埼玉県八潮市における下水道管の老朽化に起因する大規模な道路陥没や、12月の青森県東方沖を震源とする地震は、県土強靱化の一層の加速とインフラの老朽化対策が喫緊の課題であることを改めて鮮明にしました。

こうした認識のもと、本年も県土整備プランに基づき「災害レジリエンスNo.1の実現」を最重点政策に据え、氾濫時の甚大なりスクを軽減する河川改修や、災害時の緊急輸送路としても機能する道路整備などを計画的に推進するとともに、インフラの点検・診断・修繕を適時・適切に行う「予防保全型」の維持管理・更新を戦略的に推進してまいります。

農業集落排水施設は、地域の良好な生活環境を支える重要なインフラですが、老朽化の進行に伴う機能低下や事故発生リスクへの対応が求められています。このため、本県としましては、市町村が進める「最適整備構想」や「維持管理適正化計画」の策定を支援するとともに、計画的な施設の長寿命化と耐震化を一体的に推進してまいります。

あわせて「広域化・共同化」による施設の統廃合や、新技術の導入を積極的に進めることで、経営基盤の安定を図り汚水処理事業の持続可能な運営体制の確立を目指してまいります。

一方で、単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換を促進するための啓発活動を一層強化することとしており、こうした取組を通じて県土整備プランの政策の柱の一つである「健全な水循環の維持・回復」を着実に前進させていきたいと考えています。

今後も、群馬県土地改良事業団体連合会及び会員の皆様と力を合わせ、効率的かつ効果的な汚水処理事業の推進に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のますますの御健勝と御活躍を心より祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



年頭あいさつ

全国土地改良事業団体連合会会長 二階 俊博

令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」ですが、“前進”“飛躍”の年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算 政府原案においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされるよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年にあたって

都道府県水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進藤 金日子

あけましておめでとうございます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますのでよろしくご指導をお願い致します。

さて、去年は、土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、新たな土地改良長期計画の策定、第一次国土強靱化実施中期計画の策定、高市内閣の発足等、我が国にとって節目の年であったと考えています。

3月の土地改良法改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが明定され、土地改良区が市町村等と連携して水土里ビジョンを作成し、土地改良施設及び末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月の食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私は実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には令和8年度から12年度までを実施期間とする第一次国土強靱化実施中期計画が策定され、5年間の事業規模をおおむね20兆円強程度を目途とし、土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしました。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靱化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。

これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要で、特に農業構造転換集中対策期間の5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円（昨年比442億円増）となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願い致します。

第47回全国土地改良大会 佐賀大会

令和7年10月15日(水)、佐賀県佐賀市「SAGAアリーナ」において「水を利して土を活かす さがで語ろう郷里の未来」を大会テーマに第47回全国土地改良大会佐賀大会が開催され、全国から土地改良関係者4,500名余りが参集しました。

群馬県からは土地改良区及び当会役職員等53名が参加し、食料の安定供給を支える農地、農業用水などの地域資源を次世代につなぐ重要性を改めて確認しました。

大会式典は、水土里ネット佐賀 秀島副会長の開会宣言で幕を開け、水土里ネット佐賀 田島会長の開会挨拶、全国水土里ネット 二階会長による主催者挨拶、開催地である佐賀県 山口知事及び佐賀市 坂井市長から歓迎のことは、笹川農林水産副大臣、佐賀県議会 宮原議長等から来賓の祝辞が述べられた後、大申参議院議員を始めとした佐賀県選出国會議員の紹介がありました。



主催者挨拶 全国水土里ネット 二階会長



農林水産省農村振興局長表彰
群馬用水土地改良区理事長
後閑 千代壽様

全国土地改良事業団体連合会長表彰
群馬中部土地改良区理事長
石川 徹様

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰44名が表彰され、群馬県では群馬用水土地改良区理事長の後閑千代壽様が農林水産省農村振興局長表彰、群馬中部土地改良区理事長の石川徹様が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

続いて、農林水産省農村振興局 青山次長より「次世代へ、希望をつなぐ土地改良」と題した基調講演が行われ、その後、白

石土地改良区より「白石地域の農業農村の将来に向けて一白石土地改良区の変遷一」と題した事例が紹介されました。

大会宣言が鹿島市土地改良区、佐賀東部土地改良区及び水土里ネット佐賀の職員により声高らかに読み上げられた後、次期開催の奈良大会が令和8年11月17日に奈良県コンベンションセンター（奈良県奈良市）で開催されることが紹介され、水土里ネット佐賀から全国水土里ネットへ大会旗が返還、水土里ネット奈良へと引継がれました。



次期開催の水土里ネット奈良へ大会旗引継ぎ



群馬県参加者と笹川農林水産副大臣との記念撮影

事業視察

10月16日(木)、新規就農者の受け皿としての大規模施設園芸団地「スマートアグリ宮ノ元(佐賀県嬉野市)」を視察しました。嬉野市 村上市長からご挨拶をいただき、トレーニングファーム(新規就農者養成施設)の説明を受けた後、実際に独立就農された方のお話を聞きながら大規模なキュウリハウスを見学しました。



独立就農者による説明



大規模なキュウリハウス

次期開催



第48回全国土地改良大会

奈良大会

会場 奈良県コンベンションセンター

2026年11月17日(火)

『きれいな水』『豊かな土地』『美しいふる里』水土里が育てる まほろばの奈良

つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会 in くまもと ～私たち、ひとりひとりが輝く水土里ネットの未来をつくろう～

令和7年11月4日(火)～5日(水)の2日間、熊本県熊本市「ホテルメルパルク熊本」において、全国水土里ネット女性の会、くまもと水土里ネット女性の会の共催による「令和7年度 水土里ネット男女共同参画推進大会 in くまもと」が開催されました。

農業農村整備事業に携わる全国の女性が一堂に集い、男女共同参画推進の意義を深く理解するとともに、女性が活躍できる環境づくりを支援し、全国的な意識共有と組織の発展、そしてひとりひとりが活躍できる持続可能な農業農村の実現を目的に開催され、全国41都道府県から約200名が参集しました。



式典の様子

大会は、くまもと水土里ネット女性の会 森下会長及び全国水土里ネット女性の会 西会長の挨拶で開幕し、九州農政局 小野寺次長、熊本県農林水産部 中島部長、水土里ネット熊本竹崎会長、都道府県水土里ネット会長会議顧問 進藤参議院議員(代読)より挨拶がありました。

来賓紹介と祝電披露後、「やる気スイッチは押しつ押しされつ」と題して福岡県みやま市農業委員会会長で山川地区土地改良区理事である徳永順子氏による基調講演が行われました。

その後、パネルディスカッションが行われ、コーディネーターとして全国水土里ネット 親泊土地改良研究所長、アドバイザーとして基調講演の講師である徳永氏、パネラーとして水土里ネット長崎 松本理事、水土里ネット熊本 酒瀬川理事、宇城市土地改良区 田尻氏、熊本県農地整備課 大森課長が登壇し、「誰もが活躍できる地域農業を目指して～水土里ネットの挑戦～」をテーマとし意見を交わされました。

最後に、くまもと水土里ネット女性の会 岡田副会長により大会決議文が朗読され幕を閉じました。

翌日は、熊本市内コースと阿蘇コースの2コースに分かれ、現地研修が行われました。



集合写真



現地研修の様子

令和7年度 土地改良区等役職員研修会

令和7年11月6日(木)～7日(金)の2日間、渋川市伊香保町「ホテル木暮」において、農業農村整備の円滑な推進と土地改良区の運営管理を行う役職員の技術向上を図ることを目的とした「令和7年度 土地改良区等役職員研修会」を開催しました。

熊川会長による挨拶に続き、来賓として出席された群馬県農政部農村整備課 浅沼水利保全対策主監からご挨拶をいただきました。

研修は下記のとおり行われ、143名の参加者は熱心に耳を傾け、また、交流を深めました。

1日目

研修科目	講師
令和7年改正土地改良法の概要等について	関東農政局 農村振興部 土地改良管理課 課長 加藤 輝雄 様
農業・農村の価値を消費者につたえる重要性 －田園空間の教育・観光的価値－	高崎経済大学 地域政策学部 教授 片岡 美喜 [群馬県土地改良事業団体連合会 理事]
群馬県内の土地改良区の状況について	群馬県土地改良事業団体連合会 総務部 部長 岡 聡史

2日目

研修科目	講師
連携管理保全計画（水土里ビジョン）について	群馬県 農政部 農村整備課 補佐（管理指導係長） 林 英俊 様
近年の極端な天候や防災気象情報の利活用	前橋地方気象台 土砂災害気象官 西田 晶 様
農業農村整備をめぐる情勢について (オンライン)	都道府県水土里ネット 会長会議顧問 進藤 金日子 様



開会挨拶 当会 熊川会長



関東農政局農村振興部土地改良管理課 加藤課長



前橋地方気象台 土砂災害気象官 西田 晶



研修の様子

農業農村整備の集い及び要請活動

令和7年11月26日(水)、東京都千代田区「シェーンバッハ・サボー」において「農業農村整備の集い」－農を守り、地方を創る予算の確保に向けて－が、全国水土里ネット、都道府県水土里ネットの共催により開催されました。

集いは、全国の農業農村整備関係者が一堂に会し、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催され、全国の土地改良区、市町村及び都道府県水土里ネットから約1,200名が参集しました。群馬県からは、当会役職員、各支部の役員及びぐんま水土里ネット女性の会幹事等18名が参加しました。

開会にあたり、全国水土里ネット 二階会長から主催者挨拶があり、続いて鈴木農林水産大臣、城内日本成長戦略担当大臣、森山自民党食料安全保障強化本部長、宮下自民党総合農林政策調査会長、都道府県水土里ネット会長会議顧問 進藤参議院議員からご祝辞をいただきました。

その後、水土里ネット奈良 菅谷常務理事により要請書が読み上げられ、満場一致で採択されました。

お集まりいただいた国会議員の紹介後、水土里ネット奈良 上田理事によるガンバロウ三唱で閉会しました。

また、当県参加者は、集い開催に併せ、群馬県選出国会議員に要請活動を行いました。



主催者挨拶 全国水土里ネット 二階会長



来賓祝辞 鈴木農林水産大臣



都道府県水土里ネット会長会議顧問 進藤参議院議員



ガンバロウ三唱

要請書（抜粋）

全国の水土里ネットは、培ってきた経験と技術を活用し、「闘う土地改良」のスローガンの下、一致団結して、次の事項の実現を図ることを国に要請する。

記

- 一 食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画に基づき初動5年間で農業の構造転換を集中的に実施するとともに、国土強靱化実施中期計画に基づいた取組を一層推し進めるため、農業・農村を支え、守り、我が国の食料安全保障の確保に欠かせない土地改良事業をスピード感を持って推進できるよう、当初及び補正予算とあらゆる機会において、別枠を含めた必要な予算をしっかりと確保すること。その際、地方公共団体の負担軽減のための一層の支援策を講じること。
- 二 土地改良法の改正を受けて、制度の趣旨及び内容の十分な浸透を図ること。また、水土里ビジョンの作成を始めとする農地・農業用水等の地域資源を次世代につなごうとする土地改良区や土地改良事業団体連合会、市町村等の取組への支援や地方財政措置の充実を図ること。
- 三 国内の農業生産の増大と食料自給力の確保のため、地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化、高収益作物の生産拡大、麦・大豆等の本作化、スマート農業の導入やほ場周りの管理の省力化を促し生産性向上に資する大区画化、中山間地域におけるきめ細かな整備等の農地整備と情報通信環境の整備を推進すること。
- 四 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めるとともに、農地復旧についての農家負担の軽減に配慮すること。併せて、農村地域の国土強靱化のため、基幹から末端に至るまでの農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を推進すること。
- 五 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有し、食料の安全保障の確保に貢献している土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。
- 六 農村地域を支えている多面的機能支払や中山間地域等直接支払について、活動組織の体制強化や支援範囲の拡大等を図るため、更なる制度の拡充及び必要な予算の確保を行うこと。
- 七 ICT、AI等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併など、食料安全保障を支える土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 八 上記事項の推進に当たり、発注体制や施工業者の受注環境の整備等の事業の執行体制の充実を図るとともに、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。



中曽根 康隆 衆議院議員



笹川 博義 衆議院議員



福田 達夫 衆議院議員



中曽根 弘文 参議院議員

2025ため池フォーラム in ひろしま

令和7年10月23日(木)～24日(金)の2日間、都道府県職員や土地改良区職員等を対象に、ため池の保全活動や地域活性化への取り組み事例を情報共有し、危機管理意識の向上を目的とした「2025ため池フォーラム in ひろしま」が開催され、600名以上が参加しました。

1日目は、広島県広島市「JMSアステールプラザ」においてフォーラムが開催され、広島県山根副知事による開会の挨拶で幕を開け、農林水産省農村振興局整備部防災課 中藤課長、全国水土里ネット 二神主任研究員、広島県議会 山下副議長が祝辞を述べられました。

その後、全国ため池等整備事業推進協議会副会長 進藤参議院議員による情報提供(オンライン)、特別講演として、オフィス気象キャスター株式会社 岸気象予報士による「知らないと損する! 天気と防災のコツ」と題して、2014年の広島豪雨、2018年の西日本豪雨を伝えた経験を交えて講演されました。岸気象予報士は群馬県出身であり非常に親近感を持ってました。広島大学 海堀名誉教授による「土砂災害防止機能も備えたため池への期待」の基調講演、農林水産省による「農業用ため池の防災・減災対策について」の情勢報告、広島県や水土里ネット広島、土地改良設計技術協会の方々による事例発表があり、次期開催県である岐阜県農政部 若山次長の挨拶で閉会となりました。

2日目の現地見学会は、ため池の施設状況や管理方法等、維持管理の重要性や苦慮する内容等について説明を受けました。



フォーラムの様子

令和7年度 ため池サポートセンターぐんま 技術研修会

「ため池サポートセンターぐんま」では、群馬県内の防災重点農業用ため池の点検指導や現地パトロールを実施し、ため池管理者である市町村や土地改良区、水利組合に対し適正な保全管理のための助言、技術指導を行っています。

普及啓発活動の一環として、令和7年11月5日(水)、群馬県庁2階「ビジターセンター」において「ため池サポートセンターぐんま 技術研修会」を開催し、約50名が参加しました。

研修会では、関東農政局農村振興部防災課 黒岩課長補佐よりため池の整備事業や災害が発生した場合の対応について情報提供をしていただきました。

また、ため池で水中への転落事故が発生した場合の対処方法や作業中の安全管理について、動画コンテンツを活用して研修を行いました。

今後も、ため池所有者・管理者に対し日常点検の重要性について啓発します。



研修会の様子

研修科目	講師
農業用ため池の防災減災対策を巡る状況について	関東農政局農村振興部防災課 課長補佐 黒岩 明 様
防災重点農業用ため池の安全管理について	ため池サポートセンター事務局 事業部 管理課 技師 藤井 祐貴
ため池の水難事故防止対策について	ため池サポートセンター事務局 事業部 管理課 補佐 井野 英明
防災重点農業用ため池の現地パトロール及び施設の点検指導について	ため池サポートセンター事務局 事業部 管理課 補佐 井野 英明

令和7年度 土地改良区運営基盤強化推進研修

令和7年12月2日(火)、群馬県 JAビル「大ホール」において、全国水土里ネット主催による「令和7年度 土地改良区運営基盤強化推進研修」が、土地改良区機能強化支援事業実施要綱に基づき開催され、開会にあたり当会 片山常務理事の挨拶に続き、全国土地改良事業団体連合会支援部 飯田部長からご挨拶をいただきました。

研修会は、土地改良区及び群馬県職員等58名が参加し、熱心に耳を傾けていました。

研修科目	講師
土地改良区の現状と課題について	全国水土里ネット 支援部 部長 飯田 博隆 様
経営診断(収支分析、施設更新積立)について	全国水土里ネット 支援部 主任 大久保 雄平 様
土地改良区の運営について	群馬県土地改良事業団体連合会 総務部 部長兼総務課長 岡 聡史



全国水土里ネット支援部 飯田部長



全国水土里ネット支援部 大久保主任



会場の様子

令和7年度 ぐんま農業農村整備広報委員会による「学生向け現場見学会」

令和7年12月15日(月)、ぐんま農業農村整備広報委員会 広報検討部会の活動として「学生向け現場見学会」が開催され、藤岡北高等学校、勢多農林高等学校、吾妻中央高等学校の生徒が参加しました。

進路選択を控えた高校生が、教室での学習だけでは見えにくい「働く現場の実態」を体感し、職業観を育むことを目的としています。単なる業務説明に留まらず、若手職員との交流を通じて、働くことの楽しさや厳さを直接聞く貴重な機会となりました。

当日は、待矢場両堰土地改良区の会議室をお借りして、「群馬県の農業／農業農村整備事業について」「群馬県庁の仕事について」「土地改良事業団体連合会の仕事について」の説明を行い、その後「土地改良区の役割」と「水管理システム」の見学と座学を行いました。

座学後は太田市の長手第1溜池にて、現地研修を行う予定でしたが都合により現地に行くことができなくなってしまったため、リモートにてため池の施設及びICT機器を搭載した建設機械によるため池の堤体補強工事の様子を見学しました。



令和7年度 第2回理事会

令和7年11月28日(金)、当会会議室において「令和7年度 第2回理事会」を開催しました。熊川会長の挨拶後、議事に入り、理事会は、理事7名、監事2名の出席のもと行われ、議案はすべて原案のとおり承認・議決されました。

◆議 事◆

- 議案第1号 令和7年度(第2回)収入支出補正予算について
- 議案第2号 土地改良施設維持管理適正化資金拠出約款の改正について
- 議案第3号 土地改良施設維持管理適正化事業事務処理細則の改正について
- 議案第4号 会計指導員が行う土地改良区の指導監査に関する実施規程の改正について
- 議案第5号 群馬県土地改良事業団体連合会渋川支部長の委嘱について

◆報告事項◆

- (1) 運営委員会について
- (2) 積立資産の運用について(群馬県公募公債(10年)の購入)
- (3) 令和8年度群馬県当初予算に対する政調懇談会及び群馬県への要望活動について
- (4) 第47回全国土地改良大会佐賀大会について



令和7年度 第2回監事会及び監査

令和7年12月18日(木)、当会会議室において「令和7年度 第2回監事会及び監査」を開催しました。

監事会では、議事第1号から第3号を審議し、監査では、令和7年度の業務、会計経理を確認し、村上代表監事から「関係書類の調査・確認をし、協議をした結果、特に問題はなく概ね良好と認め、業務執行にあたっては、今後とも細心の注意を払うとともに会員からの信頼のおける連合会であってほしい」との監査結果報告がありました。

◆議 事◆

- 第1号 監査の実施計画について
- 第2号 監査結果の処理方法について
- 第3号 その他監事が必要と認めた事項について

◆監査事項◆

- (1) 令和7年度業務に関する事項について
- (2) 令和7年度会計経理に関する事項について
- (3) その他



令和7年度 農業集落排水に関する絵画コンクール審査会及び表彰式

群馬県農業集落排水事業連絡協議会において、広報活動の一環として、農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に農村地域における「水と緑を取り巻く環境」を題材とした絵画コンクールが実施されました。農業集落排水事業を実施している県内の市町村に募集を行い、124作品の応募がありました。

令和7年10月8日(水)、当会において審査会が行われ、応募作品の中から最優秀賞（群馬県知事賞）、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、土地改良連合会長賞、協議会長賞の上位6作品及び、優秀賞6作品、佳作9作品が選出されました。

表彰式は、11月15日(土)イオンモール高崎にて開催された「ぐんまフェア」内で行われ、以下に掲載している6作品が表彰されました。

どの作品も身近な農村風景や水田に棲む生き物が描かれており、個性豊かな作品が集まりました。



絵画コンクール審査会



絵画コンクール表彰式 記念撮影



最優秀賞（群馬県知事賞）
「夕やけこやけのさんぼ道」
中之条町立中之条小学校
4年 関 いおりさん



上毛新聞社賞
「どこまでも続く田んぼ」
吉岡町立駒寄小学校
5年 粕山 咲さん



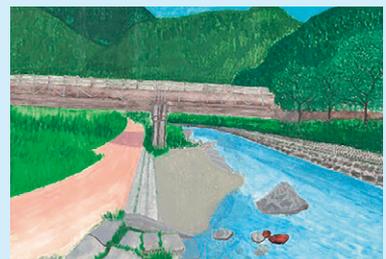
群馬テレビ賞
「きれいな水と米作り」
みどり市立大間々東小学校
5年 野村 駿太さん



エフエム群馬賞
「自然豊かな田んぼ」
中之条町立中之条小学校
4年 綿貫 結萌さん



土地改良連合会長賞
「大事なお米」
中之条町立中之条小学校
4年 春原 周弥さん



協議会長賞
「冷たい水の上沢渡川」
吉岡町立明治小学校
4年 神山 姫舞里さん

未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展2025

令和7年10月7日(火)、東京都の砂防会館別館会議室において「未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展 2025」の審査が行われ、全2,625作品の応募の中から、大臣賞等6作品、協賛企業・団体賞27作品、水土里ネット賞56作品、入選141作品、佳作170作品が選考され、当県からは下記4作品が入賞しました。作品は、12月4日(木)～11日(木)まで東京都美術館に展示されました。

「子ども絵画展」は全国水土里ネット、都道府県水土里ネットの共催により、子どもたちに田んぼや畑、水、農業・農村や自らの環境などに関心を持ってもらい、この財産を次世代へと引き継いでいくことを目的に開催されている小学生以下を対象とした絵画コンクールで、今回で26回目となります。

水路、田んぼや棚田、畑、ため池、そこに棲む生き物たち、農業に関する古くから伝わる風習、郷土料理、様々な農作業風景や地域のお祭りなどを題材に子どもたちの目で感じたままの絵画を応募しております。

なお、作品集は全国の小学校に配布されております。

(水土里ネット賞)



**高崎西部土地改良区
理事長賞**

「分けられた水をむだにしない」

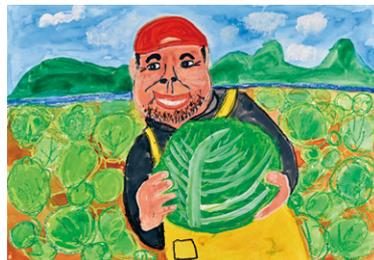
高崎市 小学校5年生
安藤 悠馬さん



**水土里ネット長野堰
理事長賞**

「キャベツ畑のおじさん」

高崎市 小学校2年生
松原 一平さん



**水土里ネットまちやば
理事長賞**

「今日も、田んぼとともに。」

館林市 小学校6年生
金子 桔子さん



(協賛企業・団体賞)



日本水土総合研究所賞

「まちにまった黄金色の季節」

太田市 小学校6年生
越塚 翔太さん



子ども絵画展では、作品の募集、とりまとめを行う水土里ネット登録を募集しております。

登録していただくと独自の水土里ネット賞(例:水土里ネット〇〇 理事長賞)を授与することができますので、ご応募お待ちしております。

全国水土里ネットホームページ

<https://www.inakajin.or.jp/works/pr/kids-art>



鹿田山フットパス整備作業が開催されました(大間々用水土地改良区)

令和7年11月6日(木)、NPO法人鹿田山環境保全ネットワーク(事務局:大間々用水土地改良区)の主催により「鹿田山フットパス整備作業」が開催されました。

ネットワークに参加する群馬県立渡良瀬特別支援学校の生徒を始め、地域住民や関係団体などが参加し、当会から若手職員研修の一環として8名が作業に参加しました。

フットパス脇に山積みになされたウッドチップを、雨による流失や自然分解で朽ちてなくなり、地肌が見えている箇所には敷き詰める作業を行いました。整備作業を行うことで、ウッドチップにより足に優しいふかふかのフットパスが仕上がります。また、ウッドチップにより雑草の生育が押さえられます。

お昼は毎年恒例となっている地元女性部手作りの地元野菜を使用したカレーが振る舞われました。



高崎市立寺尾小学校での出前授業(高崎西部土地改良区)

令和7年11月11日(火)、高崎市立寺尾小学校において高崎西部土地改良区の白石理事による出前授業が行われました。

5年生を対象に米の構造や収穫量、農業水利施設及び管理者等について説明を行いました。生徒達は、農業水路の重要性や土地改良区の役割について興味深く聞いていました。

また、最後に農業機械についての説明もあり、生徒の喜んでいる姿も見られました。



高崎西部土地改良区 白石理事



出前授業の様子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



会長
熊川 栄
(嬭恋村長)



副会長
長谷川最定
(南牧村長)



副会長
後閑千代壽
(群馬用水土地改良区理事長)



常務理事
片山 茂
(学識経験者)



理事
石川 徹
(群馬中部土地改良区理事長)



理事
星野 好孝
(赤城大沼用水土地改良区理事長)



理事
石原 康男
(岡登堰土地改良区理事長)



理事
星野 稔
(沼田市長)



理事
倉林 良行
(長野堰土地改良区理事長)



理事
須永 治男
(近藤沼土地改良区理事長)



理事
武士千雅子
(広瀬桃木両用水土地改良区副理事長)



理事
片岡 美喜
(高崎経済大学地域政策学部教授)



代表監事
村上 行正
(学識経験者)



監事
荒山江知郎
(邑楽土地改良区理事長)



監事
新井 節男
(甘楽多野用水土地改良区理事長)

外 職員一同



夢ふくらまそう・未来はぐくもう
ぐんまの農業農村整備



群馬県土地改良事業団体連合会
ホームページ

URL: <https://www.kakasi.or.jp/>

水土里ネット群馬

- 本 所 〒371-0844 群馬県前橋市古市町二丁目6番地4
TEL 027-251-4105 fax 027-251-4139
- 中西部事業所 〒371-0844 群馬県前橋市古市町二丁目6番地4
TEL 027-251-4106 fax 027-251-4222
- 利根・吾妻事業所 〒378-0031 群馬県沼田市薄根町3507番地1
TEL 0278-23-2161 fax 0278-23-2180
- 東 部 事 業 所 〒370-0426 群馬県太田市世良田町1535番地4
(世良田生涯学習センター内)
TEL 0276-55-6185 fax 0276-55-6186